

石川町教育委員会点検・評価表
(平成27年度施策・事業)

平成28年8月
石川町教育委員会

点検・評価表目次

(総務領域)

- 1 教育委員会会議の実施状況
- 2 教育委員の活動状況
- 3 学校統合の推進
- 4 施設設備・学習環境の整備充実

(学校教育領域)

- 5 教師の指導力の向上と確かな学力の育成
 - (1) 学力向上推進事業の推進
- 6 教師の指導力の向上と確かな学力の育成
 - (2) 「いしかわ交流・連携」の推進
- 7 情報化教育と国際理解教育の推進
 - 電子黒板等 I C T 機器の活用と英語教育の推進

(生涯学習領域)

- 8 青少年活動の推進
 - 放課後児童対策事業 (放課後子ども教室)
- 9 生涯学習機会の充実、社会教育の充実
 - 生涯学習 (各自治センター) への支援
 - 公民館事業の推進
- 10 公民館図書室利用の促進

(文化振興領域)

- 11 文化財の保護・活用と愛護思想の高揚
 - 文化財普及活動 (埋蔵文化財出前体験学習事業)

(体育振興領域)

- 12 スポーツの振興
- 13 社会体育施設の整備

(歴史民俗資料館)

- 14 鉾物、歴史民俗資料の公開、教育普及活動、調査研究の推進

(別紙 2)

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

		分 野	その他
		担 当 係	総務係
1. 点検・評価項目	教育委員会会議の実施状況		
2. 事業の目的と概要	教育行政の組織及び運営に関する最終決定機関 平成27年度目標値 定例会 12回		
3. 平成 27 年度の事業実施状況	定例会 12回 (決算額： 1, 182千円)		
4. 前年度 平成 26 年度の状況	定例会 12回 (決算額： 1, 294千円)		
5. 事業の効果	① 定期的に委員会を開催し、各委員の合議により運営されている。 ② 委員会では、懸案事項、重要案件などについて研究し、議論を活発に行い意見の交換を行っている。 報告事項35件 (26年度 38件) 協議事項11件 (26年度 13件)		
6. 課題と改善	各教育委員は、学校教育、社会教育等の関係行事に積極的に参加し、地域住民の多様な意見の反映に努めており、今後もこの流れを継続していくものである。		

(別紙 2)

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

分 野	その他
担 当 係	総務係

1. 点検・評価項目	教育委員の活動状況
2. 事業の目的と概要	
① 学校など教育委員会所管施設を視察し、運営状況を把握する。 各種主催行事へ積極的に参加し、地域住民の多様な意見を反映に努める。	
② 委員としての専門的知識を高めるため、課題研究を計画的に行うとともに、他町村の教育委員との研修等により自己研鑽に努める。	
平成 27 年度の目標値	・ 学校訪問 2回 ・ 研修会 1回
3. 平成 27 年度の事業実施状況	
① 学校視察及び教職員との懇談 石川中学校 (11月)	
② 研修会等 石川支会現場視察 (7月 石川町) 内容：新石川小学校の建築現場視察 教育委員・教育長研修会 (8月 福島市) 内容：講演Ⅰ「官民一体型学校～新しい公教育のはじまり～」 講師 「花まる学習会」スクールFC 松島伸浩 講演Ⅱ「コミュニティスクールと学校支援地域本部の一体的な推進」 講師 文部科学省初等中等教育局参事官付企画官 藤原一成 文部科学省初等中等教育局コミュニティスクール推進員 安齋宏之 県中ブロック研修会 (10月 田村市) 内容：講演「教育委員のための天文講座」 講師 星の村天文台長 大野裕明	
③ 新任教育委員研修 受講者なし	
④ 教育委員会主催行事等への積極的参加 主な参加行事：各小学校運動会・学習発表会、小中学校入学式・卒業式、石川小学校開校式・落成式、少年の主張大会、子育て講演会、各地区文化祭など (決算額： 0千円)	
4. 前年度 平成 26 年度の状況	
① 学校視察及び教職員との懇談 母畑小学校 (7月) 石川小学校 (11月)	
② 研修会 石川支会研修会 (7月 平田村) 内容：講演「教育行政の諸問題について」 県中ブロック研修会 (2月) 施設見学「福島再生可能エネルギー研究所」 支会長・教育委員研修会 (8月) 講演「教育委員会制度の概要と今後の動向について」	
③ 新任教育委員研修 新教育委員 2名受講	
④ 教育委員会主催行事等への積極的参加 (決算額： 0千円)	
5. 事業の効果	
① 移動教育委員会で学校を訪問し、授業内容等についての点検を行っている。	
② 教職員との懇談を通して、教育現場の現状把握に努めている。	
③ 各種社会教育関係行事に積極的に参加し、本町が行う社会教育事業の現状把握に努めている。	
6. 課題と改善 研修会等に積極的に参加し、教育委員としての見識を高め、本町教育行政の課題解決に努める。	

(別紙2)

平成28年度教育委員会点検・評価表 (平成27年度事業実施状況)

		分野	学校教育の充実
		担当係	総務係
1. 点検・評価項目	学校統合の推進		
2. 事業の目的と概要	<p>目的 児童生徒数が減少する中で、町民意識の醸成を図りつつ、より良い学校教育環境を整備するため、平成27年4月1日、石川小・中学校の統合を実施した。</p> <p>概要 石川町立小・中学校統合計画に基づき、学校統合を実施し、母畑小、中一小、中二小、山形小、南山形小、沢田中が閉校して、小学校3校、中学校1校となった。</p> <p>(平成27年度目標)</p> <p>①新石川小学校校舎を速やかに完成させ、引越しをし、通常授業を行うこと。 ②統合準備会で検討した事項について、小中学校統合後の総括を行うこと。</p>		
3. 平成27年度の事業実施状況	<p>①石川町立小中学校統合準備会の活動 統合準備会の開催状況：全体会1回開催し統合の総括を行った。 (決算額：90千円)</p> <p>②石川小学校落成式挙行 とき：平成28年9月25日(金)午後2時～ ところ：石川小学校クリスタルホール 参加者：石川小5・6年生児童含む約300名</p> <p>③新石川小校舎建築工事費(繰越)、新石川小敷地造成工事費(繰越)、新石川小屋体設計委託費 新石川小屋体建築工事前払金5割など (決算額：1,244,070千円)</p>		
4. 前年度 平成26年度の状況	<p>①石川町立小中学校統合準備会の活動 統合準備会の開催状況：全体会2回、総務部会3回、教育振興部会5回、通学検討部会3回</p> <p>②閉校記念事業補助金：学校統合により、閉校記念事業(式典の開催、記念誌制作、記念碑制作)を実施した小学校6校、中学校1校の各実行委員会へ800千円を補助した。</p> <p>③新石川小学校校歌の作曲及び校旗の制作 (決算額：8,129千円)</p> <p>④統合小学校建設事業 ・工事：新石川小校舎建築工事費前払金2割等 (決算額：334,737千円)</p>		
5. 事業の効果	<p>平成27年9月11日に新石川小学校校舎の引渡しを受け、14日～24日に引越し作業を行い、25日に落成式を挙行し、28日から通常授業を行った。(給食も28日から提供)</p> <p>また、統合準備会は、7月28日に全体会を開催し、検討を行った通学バス、新制服、新運動着等について、統合後に問題が起きていないかどうかの検証を行い、目的の達成を確認し解散した。</p>		
6. 課題と改善	<p>多くの町民の方々の協力を得て、特に大きな問題もなく平成27年4月1日小中学校の統合が完了した。</p> <p>また、新校舎の建設においては、工期に遅れはあったものの、引越し等がスムーズに行われ、9月28日から新校舎で通常の授業を行うことができた。</p>		

(別紙 2)

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

分 野	学校教育の充実
担 当 係	総務係

1. 点検・評価項目	施設設備・学習環境の整備充実
2. 事業の目的と概要	小学校3校、中学校1校の校舎等の施設の修繕、工事及び教育機器の保守整備。 平成27年度の目標値 安全安心な学校施設の整備推進と学習環境の改善
3. 平成27年度の事業実施状況	工事・修繕 小学校(修繕27件 工事7件) 中学校(修繕12件 工事7件) 主な事業 石川小(体育館窓格子取付工事) 沢田小(屋内運動場屋根塗装工事) 野木沢小(給水ポンプ修繕工事) 石川中(A棟壁面等補修工事) (決算額:12,522千円)
4. 前年度 平成26年度の状況	① 工事・修繕 小学校(修繕47件 工事12件) 中学校(修繕13件 工事14件) 主な事業 石川小(トイレ修繕工事) 沢田小(網戸修繕工事) 野木沢小(プール配水管修繕工事) 母畑小(屋上シート防水工事) 中谷一小(給湯管修繕工事) 中谷二小(屋内運動場雨漏修繕工事) 山形小(誘導灯バッテリー交換修繕) 南山形小(取水ポンプ施設制御盤修繕工事) 石川中(駐車場舗装工事) 沢田中(屋内運動場雨漏修繕工事) (決算額:15,297千円) ② 空調設備設置工事(沢田小、野木沢小、石川中) (決算額:73,808千円)
5. 事業の効果	既存校舎等の老朽化に伴う破損箇所等の修繕・工事を迅速に行うことにより、児童生徒の安全確保に努めた。
6. 課題と改善	耐震基準を満たしていない小中学校校舎等の改修を計画的に推進し、安心安全な施設整備を図る。

(別紙 2)

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

		分 野	学校教育の充実
		担 当 係	学校教育係
1 点検・評価項目	教師の指導力の向上と確かな学力の育成 (1) 学力向上推進事業の推進		
2 事業の目的と概要	目標 教師の指導力の向上と石川町の児童生徒の学力の向上を目的に、小・中学校の交流・連携と家庭との連携の手立てを構築・実践する。 事業概要 (1) 「いしかわ交流・連携事業」を関連付けながら、学力向上に関わる各事業の充実に向けた会議の開催と連絡調整、事業成果の確認・波及・浸透を図る。 (2) 学力調査等の結果を分析・考察し、本町としての課題を明らかにして、その解決のために教育委員会で効果的な対策を講じる。		
3 平成 27 年度の事業実施状況	<ul style="list-style-type: none">・ 学力向上推進会議を 2 回、学力向上推進部会を 4 回開催し、町の学力向上の方針と各学校の現職教育の連携を図った。小中学校の連携授業研究会を 2 回実施し、学習内容の系統的な研究と学習スタイルの統一を図った。・ 各学校での授業研修会のはべ 35 回開催され、それぞれの事後研究会で「学び合い」の成果と課題について協議した。・ 夏季休業中に「石川町教育ゼミナール」(教員研修会)を 2 日間実施し、町内外から延べ 60 名の教員が参加して授業力の向上を目指して研修を積んだ。・ 「いしかわのじかん」の趣旨を踏まえ、学校と P T A が協力して児童生徒の家庭学習や読書の時間の増加を図った。・ 町内全児童生徒への教研式学力調査 (N R T) の実施により、児童生徒の学力の実態把握を進めた。 (決算額：1, 752 千円)		
4 前年度 平成 26 年度の状況	<ul style="list-style-type: none">・ 学力向上推進委員会会議 2 回、学力向上推進部会 4 回を実施し、授業研究会における授業力向上に努めた。・ 各学校での授業研修会で「学び合い」学習の成果と課題について協議、検討した。・ 「いしかわのじかん」の設定と家庭での日常生活における家庭学習、読書等を推進した。 (決算額：1, 518 千円)		
5 事業の効果	<ul style="list-style-type: none">・ 大学の教育理論を現場の教育実践に積極的に取り入れることにより、授業スタイルの統一化が図られた。「学び合い」を授業の基本スタイルとして、町内の小中学校で統一した授業実践を行った。・ 年間 2 回の小中連携授業研究会をはじめ、各学校間の合同研修会の内容が充実し、教師の指導力の向上、児童生徒の学力向上につながっている。・ 「石川町教育ゼミナール」を通して、授業力向上への意識が高まった。・ 教研式学力調査 (N R T) による児童生徒の学力の実態把握から、陥没領域や内容を確実に捉え、指導の重点化に取り組むことができた。		
6 課題と改善	<ul style="list-style-type: none">・ 各学校の授業研修会において、学力向上の課題を共有することができたが、今後、各学校の研究計画や研修内容のすり合わせを進め、さらなる学力向上につなげていきたい。・ 小・中学校連携による新たな教育課程や研修内容を検討していきたい。・ 日々の授業力の向上を図るための具体策の工夫が必要である。・ 児童生徒の「学びの習慣」の確立のため、家庭学習との連携を図った具体的な方策を検討していく必要がある。		

(別紙 2)

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

	分 野	学校教育の充実
	担 当 係	学校教育係
1 点検・評価項目	教師の指導力の向上と確かな学力の育成 (2)「いしかわ交流・連携」の推進	
2 事業の目的と概要		
目標	児童生徒の人間関係づくりを行うことにより、人間関係による不安や幼保小間、小中間の進級に関する不安の解消を目指す。	
事業概要	学力向上推進事業と関連付けながら、「いしかわ交流・連携事業」による諸事業を推進し、児童生徒の望ましい人間関係づくりを行う。	
3 平成 27 年度の事業実施状況	<ul style="list-style-type: none">6年生合同交流会（フライデーコネクション）や特別支援学級交流会を定期的実施し、中学校進学後の授業や諸活動がスムーズに実施できるようにした。不登校児童生徒数（28年3月末） 小学生2名 中学生16名 担任、生徒指導担当の家庭訪問や教育相談等、不登校解消へ向けた具体的な取り組みを推進した。学校でのケース会議の開催、スクールカウンセラーによる相談、登校支援の確立、スクールソーシャルワーカー等関係機関との連携を行い、不登校の解消に向けて努力した。心豊かな人間関係づくりを目指し、町内各学校間の児童生徒の連携・交流学习を積極的に進めた。「いしかわふるさと教育」を推進し、地域教材を通して地域を理解し、地域に貢献できる人材の育成を図った。また、小学校社会科補助教材「わたしたちの石川町」の編集に取り組んだ。特別支援教育に関する協議会の開催により「特別支援教育の理念」に基づく児童生徒理解と具体的な指導支援を進めた。生涯教育に通じる勤労観や職業観等の意識を児童生徒に育てるため、キャリア教育を進めた。 (決算額：1,752千円)	
4 前年度 平成 26 年度の状況	<ul style="list-style-type: none">不登校児童生徒数（平成27年3月末） 小学生3名 中学生12名石川町特別支援教育協議会の実施することにより、情報共有を図りながら、早期の対応に努めた。教職員の交流事業の教育課程検討会において、児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために、各学校毎にキャリア教育計画を作成することができた。 (決算額：1,518千円)	
5 事業の効果	<ul style="list-style-type: none">各種交流活動により、思いやりを持って行動できるようになり、中学校進学に向けての不安を軽減することができた。「わたしたちの石川町」編集委員会を組織し、原稿を作成し、完成に向けて取り組んだ。最終的にはデジタルデータとしてタブレット端末に保存して活用する予定である。町特別支援教育協議会により、町内各学校、各保育所・児童館、幼稚園に在籍している個別支援が必要な児童生徒に関する情報を共有することができ、就学や進学に向けて連携して支援できるようになってきた。	
6 課題と改善	<ul style="list-style-type: none">不登校児童生徒に対する指導・支援の充実や保護者との協力体制の構築を目指し、カウンセラーや関係機関との連携を図りながら、具体的な方法について検討していく必要がある。キャリア教育全体計画から、勤労観や職業観等の意識を児童生徒に育てるため具体的な手立てや方法の研究を進める必要がある。「わたしたちの石川町」を活用して、ふるさとを知り、ふるさとに貢献できる人材の育成を目指した「いしかわふるさと教育」をさらに推進していく必要がある。	

(別紙 2)

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

		分野	学校教育の充実
		担当係	学校教育係
1	点検・評価項目	情報化教育と国際理解教育の推進 電子黒板等 ICT 機器の活用と英語教育の推進	
2	事業の目的と概要	目標 (1) 電子黒板等 ICT 機器を積極的に活用し、より学習効果を上げる。 (2) 小学校から中学校の 9 年間を見通した英語教育を推進し、児童の国際感覚を養うと共に中学生の英語の語学力を向上させる。 事業概要 (1) 電子黒板等 ICT 機器のメリットを生かし、学習活動の充実のために積極的な活用を図る。 (2) 小学校、中学校を中心に英語指導助手を配置し、多様な教育活動を展開することで、国際社会の理解を深め、コミュニケーション能力の育成を図る。また、小学校における「英語教育」の充実のために、小学校教員による英語指導の研修機会の確保に努め、英語指導力の向上を図る。	
3	平成 27 年度の事業実施状況	・ 日常的な授業でのコンピュータの活用や電子黒板の活用を進めた。 ・ 電子黒板やその他 ICT 機器の取扱いに関する研修を各学校毎に進めた。 ・ 英語指導助手の効果的な活用を図った。 英語指導助手派遣日数 小：204日 中：184日 (含：保育所等20日) ・ 年間4回の国際理解推進会議では、小中学校教員が合同での授業研究会を実施したり、英語副読本『ハイツ・フレンズ』等の資料を使った研修を実施した。 ・ 国際理解教育 (小学校1～4年) の年間指導計画の作成を行い、25年度より各学年12時間の国際理解教育を実施している。 ・ 小学校6年生全員により一泊二日の「英国文化体験教室」をプリティッシュ・ヒルズで実施した。 ・ 老朽化により各学校のサーバを更新した。(学校のデータの保存のため) ・ タブレット端末13台と周辺機器を購入して、授業で活用できるようにした。 (決算額：27,490千円)	
4	前年度 平成 26 年度の状況	・ 電子黒板等 ICT 機器を活用した研究授業、研修会：2回 ・ 小・中学校等への英語指導助手派遣日数 小：190日 中：172日 (含：保育所等16日) ・ 英国文化体験教室 (8/6～8/8) …参加者 小学生 34 名、中学生 20 名 計 54 名 (決算額 2,452 千円) 生涯学習係が担当 (決算額：10,694千円)	
5	事業の効果	・ 電子黒板を活用する授業が多く見られるようになった。また、各教科においてデジタル教科書を積極的に使用し、学習意欲を高めることができた。 ・ 国際理解教育年間指導計画の作成により、町内小学校の英語の学習内容の共通化が図られた。 ・ 英語指導助手の手作り教材や個別の授業プログラムにより、多くの児童生徒が英語に対する興味・関心を高め、興味深く活動する姿が多く見られた。 ・ 「英国文化体験教室」で英会話や英語を通じたゲーム、エチケット・マナーを学習することにより、外国語に対する理解を深め、同時に他校との交流を通して、児童の社会性や個性の伸長を図ることができた。	
6	課題と改善	・ 各学校の英語・外国語学習の年間計画を策定し、町内共通の教育課程を開発することも考えていく必要がある。 ・ 小中学校ともイングリッシュルームの設定やオールイングリッシュの授業の実施をさらに検討する必要がある。 ・ 授業におけるタブレット端末の活用を今後検討していく必要がある。(H28 全校への導入)	

(別紙 2)

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

		分 野	青少年の健全育成
		担 当 係	生涯学習係
1. 点検・評価項目	青少年活動の推進 放課後児童対策事業 (放課後子ども教室)		
2. 事業の目的と概要	<p>地域の人々の協力を得て、安全・安心な居場所と豊かな体験活動機会を提供し、青少年の健やかな環境づくりを推進することを目的とする。</p> <p>沢田小と野木沢小の1年生から3年生を対象に、週2回程度、放課後の1時間程度を利用し、読み聞かせ、紙芝居、軽スポーツ、レクリエーション、料理教室などの体験活動を提供した。</p>		
3. 平成 27 年度の事業実施状況	<ul style="list-style-type: none">・ 沢田子ども教室 水・木曜日 14時40分～15時30分 47名 54回開催 (参加率81%)・ 野木沢子ども教室 火・水曜日 15時10分～16時10分 42名 48回開催 (参加率90%) ・ 子ども教室関係者による打合せ会議 3回開催 <p>(決算額： 984 千円)</p>		
4. 前年度 平成 26 年度の状況	<ul style="list-style-type: none">・ 沢田子ども教室 43名 22回開催 (参加率97%)・ 野木沢子ども教室 48名 29回開催 (参加率94%)・ 安全管理員 2名、活動指導員 31名 計33名 <p>(決算額： 364 千円)</p>		
5. 事業の効果	<p>放課後の子ども達の安全・安心な活動拠点 (居場所) として、地域の方々の参画を得ながら、読み聞かせ等の読書活動や野菜づくり等の様々な体験教室を提供し、子どもたちと地域ボランティアの方々との交流、そして異学年の子ども達の交流の場として提供することができた。</p>		
6. 課題と改善	<p>平成27年度からコーディネーター1名を雇用し、開催数を週2回に増加して実施した。課題としては、時間の延長を希望されるケースへの対応や、活動指導員として協力していただける人材の確保がある。</p>		

(別紙2)

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

		分 野	生涯学習の充実
		担 当 係	生涯学習係
1. 点検・評価項目	生涯学習機会の充実、社会教育の充実 生涯学習（各自治センター）への支援 公民館事業の推進		
2. 事業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none">各自治センター等で行っている生涯学習活動を支援し、地域の教育力の向上に努める。 地域の実情に即し、各自治センターで取り組んでいる各種教室（生涯学習講座）への講師派遣や助言、または資料の提供など。現代的な課題、青少年や一般成人など世代に応じた各種教室・講座等を開設する。 青少年を対象とした「ぼくもわたしもチャレンジャー」、成人を対象とした「生き生きライフ講座」を開設し、それぞれに応じた多様なメニューを採り入れて実施する。		
3. 平成27年度の事業実施状況	<ul style="list-style-type: none">教室の内容に応じた講師の選定及び派遣等への助言、生涯学習に関連する資料提供などぼくもわたしもチャレンジャー 実施回数8回 163名 勾玉づくり、角田市との交流（鉱物採取、はやぶさ祭り）、サイエンス教室、洞くつ探検、登山火おこし、年賀状作りなど生き生きライフ講座 実施回数8回 延べ87名 美術鑑賞、気功体操、ヨガ、健康に関連する講座（わらい、フットケアなど） (決算額：85千円)		
4. 前年度 平成26年度の状況	<ul style="list-style-type: none">自治センターへの支援 石川城物語の制作に向けて、資料提供、アドバイス等の支援を行った。青少年や一般成人などを対象とした教室の開設 ぼくもわたしもチャレンジャー 実施回数7回 延べ126名 生き生きライフ講座 実施回数6回 延べ64名 (決算額：79千円)		
5. 事業の効果	<ul style="list-style-type: none">各自治センターで有している生涯学習関連の情報等には限界がある。その点、情報等を有する我が部署からの提供や助言等は欠かせない。少なからず教室運営等に反映されているものと思われる。ぼくもわたしもチャレンジャーについては、様々な体験活動や交流を通して、故郷・石川を愛する心が育まれたものと思われる。生き生きライフ講座については、健康等に即した多様なメニューを展開。実施回数についても前年に比し2回の増。閉講時におけるアンケートなどから有意義な内容で実施出来たものとする		
6. 課題と改善	一部指摘を受けている成人向けの教室開設については、各自治センター等で実施していることもあり、新たな開設には環境を整えることが必要。課題等の抽出、求められる事業等を検討しながら、開設に努めたい。		

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

		分 野	公民館図書室事業の充実
		担 当 係	公民館
1. 点検・評価項目	公民館図書利用の促進		
2. 事業の目的と概要	<p>目的：図書の実用を図り、多くの市民に図書利用を促進し、文化の向上に資する。</p> <p>①公民館図書の実用と有効活用・・・図書購入、図書システムの導入。 ②子ども図書事業の推進・・・「みんなおいでよたのしい絵本」の定期開催。 ③図書関連事業の推進・・・絵本に関する講演会、絵本の各保育所等団体貸出による有効活用。 ④図書室利用者の促進・・・町ホームページでの新刊図書等の情報提供。</p>		
3. 平成 27 年度の事業実施状況	<p>①図書の実用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書購入 464冊 (内訳 一般図書 192冊 児童図書 272冊) ・ 寄贈図書 882冊 (内訳 一般図書 506冊 児童図書 376冊) ・ リサイクルコーナーの活用 ・ 移動図書 (巡回図書) の活用 県立図書館「あづま号」年 2 回 (1 回につき約 500 冊借用) <p>②図書室利用 大人 2,749 人、子ども 1,983 人 合計 4,732 人 ③貸出冊数 7,481 冊 (うち児童書 3,461 冊) ④子ども図書事業「みんなおいでよたのしい絵本」月 1 回 年 11 回開催 (参加者数 134 人)</p> <p style="text-align: right;">(決算額：783 千円)</p>		
4. 前年度 平成 26 年度の状況	<p>①図書室利用の促進・・・大人 2,707 人、子ども 2,721 人 合計 5,428 人 ②図書の実用・・・一般図書購入 185 冊、児童図書購入 384 冊、寄贈図書 212 冊 ③図書利用の促進 ④図書運営委員会の開催・・・1 回開催</p> <p style="text-align: right;">(決算額：793 千円)</p>		
5. 事業の効果	<p>①平成 25 年度に策定した「子ども読書活動推進計画」に沿って事業を実施した。 ②子ども図書事業を 11 回開催し、親子での図書利用の場を提供した。 ③図書システムの導入に向けた諸準備を進めることが出来た。</p>		
6. 課題と改善	<p>①一般図書だけでなく幼児向けや児童図書を充実し、図書室の利用拡大に繋げたい。 ②図書システムの導入 ③図書ボランティアの育成 (子ども図書事業や放課後子ども教室等での育成の場の提供) ④各保育所や医療機関待合所への絵本の貸出をし、有効利用を図る。 ⑤本を通しての子育て講演会は、町内の保育所で順番に実施しており、大変好評であることから継続して実施する。 ⑥DVD 視聴コーナーの有効活用。</p>		

(別紙 2)

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

		分野	文化の振興と文化遺産・鉱物の保存・活用
		担当係	文化振興係
1. 点検・評価項目	文化財の保護・活用と愛護思想の高揚 文化財普及活動 (埋蔵文化財出前体験学習事業)		
2. 事業の目的と概要	<p>歴史の学習や故郷の歴史を理解するため、埋蔵文化財出前体験学習事業を小中学校や一般成人を対象に行い、郷土教育や文化財保護の啓蒙を図る。</p> <p>小中学校については3コース (①出前授業、②連携 (職員・先生)、③史跡・文化財見学解説支援)、一般成人向けについては2コース (①自治センター等にて出前講座、②史跡・文化財見学解説支援) を開設する。</p> <p>平成27年度目標値：出前講座の拡充</p>		
3. 平成 27 年度の事業実施状況	<p>・小中学校における埋蔵文化財出前体験学習事業 石川小学校 6年 94名 史跡見学コース① (大壇古墳群など)</p> <p>(決算額： 0 千円)</p>		
4. 前年度 平成 26 年度の状況	<p>・小学生向け出前講座 4回 参加児童76名 ・一般成人向け出前講座 (表郷公民館) 1回 参加者30名 ・石川自治センター「石川城物語」への協力</p> <p>(決算額： 0 千円)</p>		
5. 事業の効果	<p>・学校を対象とした出前授業の効果として、「見て・触れて・学ぶ」このような体験学習は、普段の教育現場からでは得られない学習効果に繋がったものと認識している。また、ふるさつを見直す契機や、ふるさつへの愛着と誇りを養うことにも繋がり、郷土教育の観点からも大変有効である。</p>		
6. 課題と改善	<p>・学校数の減少により要望数も減っていることから、これまでの内容を見直し、単なる体験学習としてだけでなく、授業の一助として先生方との連携を深めていくなどの改善が必要である。</p>		

(別紙 2)

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

		分 野	生涯学習事業の充実
		担 当 係	体育振興係
1. 点検・評価項目	スポーツの振興		
2. 事業の目的と概要			
<p>健康でいきいきと生活出来るよう、生涯スポーツの振興を図るため、講習会等を行い社会体育指導者の育成と資質の向上に努めるとともに、青少年の健全育成と参加相互の交流を図り、生涯にわたってスポーツに親しむ基礎を築く。</p>			
3. 平成 27 年度の事業実施状況			
<ul style="list-style-type: none">・石川町スポーツ推進委員会研修会 2 回 ・ ・ ニュースポーツ (家庭バレーボール)、救急救命法講習会 その他：ふくしま駅伝事業等協力事業の実施・石川さくらロードレース大会 ・ ・ 雨天により中止。・ふくしま駅伝大会に参加し、中・高校生・大学生・一般選手や監督・コーチなどが一致団結し、59 市町村中、総合 14 位、町の部 4 位と優秀な成績を収めた。・学校施設開放事業 町内小・中学校体育施設開放 年間利用者数 16,270 人・第 9 回市町村対抗福島県軟式野球大会 ・ ・ 9 月 12 日開会し、石川町は一回戦飯舘村と対戦し 2-1 で勝利。二回戦中島村と対戦し 7-8 で惜しくも敗退。・第 2 回市町村対抗福島県ソフトボール大会 10 月 17 日開会し石川町は一回戦西郷村に 2-1 で勝利し、二回戦川俣町に 0-10 で敗退。 (決算額： 3,422 千円)			
4. 前年度 平成 26 年度の状況			
<ul style="list-style-type: none">・スポーツ推進委員会研修会 2 回 ・ ・ クロリティー、救急救命法講習会。・石川さくらロードレース大会 4 月 12 日 (土) 開催。・石川町代表として市町村対抗福島県軟式野球大会・ソフトボール大会出場。どちらも 3 回戦敗退。・学校施設開放事業。 <p>(決算額： 3,682 千円)</p>			
5. 事業の効果			
<p>町スポーツ推進委員研修会を実施し、各地域への普及に務めた。救急救命講習会を継続してきたことでスポーツ推進委員が緊急時に対応できる技能が備わった。</p> <p>学校体育施設開放事業により、地域スポーツ・レクリエーション等、場の提供ができた。</p> <p>石川町代表として、市町村対抗軟式野球・ソフトボール大会に参加した。</p>			
6. 課題と改善			
<p>地域や年齢層により、スポーツを楽しむことがなかなか難しい状況にある。各地区から推薦されたスポーツ推進委員が教育委員会・各自治センターなどと協力し、住民ニーズを的確にとらえ、各年代に応じたスポーツの振興と、スポーツ環境を整備し、ニュースポーツの普及を推進していくことが必要である。</p> <p>小・中学校統合により、スポーツ少年団の解散・統合が進み、児童・生徒のスポーツ離れが加速しないようにする方策を、小・中学校と連携しながら検討していく必要がある。</p>			

(別紙 2)

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

分 野	生涯学習事業の充実
担 当 係	体育振興係

1. 点検・評価項目	社会体育施設の整備
2. 事業の目的と概要	町民に良好なスポーツ活動の場を提供するため、町民グラウンド野球場をはじめ、武道館、温水プール、総合運動公園等の維持管理に努める。
3. 平成 27 年度の事業実施状況	下記社会体育施設維持管理 ・町民グラウンド野球場暗渠排水設置ほか維持管理 ・石川町武道館LED証明取替え工事・屋根防水マット設置工事ほか維持管理 ・石川町総合体育館非常灯交換・移動式バスケットゴール修繕・トイレ改修工事他維持管理 ・石川町総合運動公園漏水工事・浄化槽修繕工事他維持管理 ・石川町温水プールLED照明取替え・熱交換器修繕工事他 ・石川町温水プール天井板落下受けネット設置・昇温系統循環工事他 (決算額：65,280千円)
4. 前年度 平成 26 年度の状況	下記社会体育施設維持管理 ・町民グラウンド野球場砂入替工事ほか維持管理 ・石川町武道館雨漏り補修工事ほか維持管理 ・石川町総合体育館アリーナ床下点検修繕工事他維持管理 ・石川町総合運動公園多目的広場側溝設置工事他維持管理 ・石川町温水プールろ過機付属活性酸素ろ過装置設置工事 ・石川町温水プール入替設置工事他 (決算額：86,962千円)
5. 事業の効果	社会体育施設の工事、修繕をするなど、施設の維持管理運営に務めた。
6. 課題と改善	新小学校建設に伴い、野球場、温水プールの社会体育施設を利用し、新石川小学校が授業等を実施している状況の中で、施設の老朽化が進む施設の安全性を考えながら、施設の修繕・改修を計画的に行う必要がある。しかし、予算には限度があるため、優先順位を考えながら、児童・生徒や町民が安心して利用できる施設を目指して行くことが大切である。 また、総合体育館についても、建設してから約22年が経過し、他の施設同様に老朽化が進んでおり、やはり計画的な施設や備品などの修繕・改修計画が必要である。

平成 28 年度教育委員会点検・評価表 (平成 27 年度事業実施状況)

		分野	鉱物、歴史民俗資料の公開、調査研究
		担当係	歴史民俗資料館
1. 点検・評価項目	鉱物、歴史民俗資料の公開、教育普及活動、調査研究の推進。		
2. 事業の目的と概要	<p>①「日本三大鉱物産地」に数えられる石川町。その鉱物標本を公開展示し、町民の理解を一層深める。</p> <p>②歴史民俗資料の展示により、先人の生活と町の歴史を概観できるようにする。</p> <p>③上記 2 点のため、鉱物、歴史民俗資料の調査研究収集を充実する。特に、鉱物については石を活かした町づくりを一層推進するため重点的に取り組む。</p>		
3. 平成 27 年度の事業実施状況	<p>①企画展「石川地方の自由民権運動」開催 平成 27 年 9 月 19 日～10 月 18 日 講演会も実施</p> <p>②企画展「飯島栄一コレクション」開催 平成 28 年 3 月 1 日～5 月 8 日</p> <p>③「郷土教育」(児童・生徒対象：鉱物、歴史民俗学習) 町内外小中高 5 校</p> <p>④「飯盛里安博士関連資料」調査・研究 わが国放射化学創始者の関連資料(理研希元素工業扶桑第 806 工場関連)</p> <p>⑤新石川小に鉱物標本調査設置</p> <p>⑥和久観音山鉱山跡土地購入(第 1 鉱体・第 4 鉱体)</p> <p>⑦第 2 次鉱物保護収集委員会を開催(年 4 回開催)。</p> <p>⑧鉱物館構想に係る鉱物保護収集委員会による先進地視察 平成 27 年 7 月 25 日～26 日 視察箇所：(新潟県)フォッサマグナムミュージアム、(岐阜県)中津川市鉱物博物館、ストーンミュージアム博石館</p> <p>⑨「資料館便り」の発刊(広報いしかわ誌上に 6 回、Web 版 3 回)。 ◎入館者数 町内 523 人、県内 943 人、県外 553 人 計 2,019 人 (決算額：7,613 千円)</p>		
4. 前年度 平成 26 年度の状況	<p>①企画展「あぶくま高地の緑柱石展」開催 7 月 26 日～11 月 30 日</p> <p>②出版「ペグマタイトの記憶～石川の希元素鉱物と『二号研究』のかかわり～」(平成 25 年度) 出版 7 月 15 日 第 37 回福島民報社出版文化賞特別賞受賞</p> <p>③「郷土教育」(児童・生徒対象：鉱物、歴史民俗学習) 町内外小中高 10 校</p> <p>④「飯盛里安博士関連資料」調査・研究 わが国放射化学創始者の関連資料(理研希元素工業扶桑第 806 工場関連)</p> <p>⑤学校所蔵鉱物調査(学校統合関連：新石川小へ移管する鉱物標本調査)</p> <p>⑥学校所蔵古書類調査(学校統合関連) 町内全小中学校で実施 明治期の貴重な学校日誌等を確認</p> <p>⑦第 2 次鉱物保護収集委員会の立ち上げ。</p> <p>⑧「資料館便り」創刊。 ◎入館者数 町内 510 人、県内 523 人、県外 572 人 計 1,605 人 (決算額：4,294 千円)</p>		
5. 事業の効果	<p>①企画展を 2 回開催できた。本町初の自由民権運動関係の企画展となる「石川地方の自由民権運動」では、1 ヶ月間の開催期間ながら、400 名の来場者があった。また、「飯島栄一コレクション」では、石川町民に町内産鉱物の価値を周知できた。</p> <p>②「郷土教育」では、鉱物・歴史・民俗資料について、各学年・学校に応じた説明を心がけ、展示以外の資料も準備したことにより、児童・生徒の石川に関する理解や関心が高まった。</p> <p>③和久観音山鉱山跡の一部を将来的に町指定天然記念物に指定すべく、第 1 鉱体・第 4 鉱体を購入した。</p> <p>④第 2 次鉱物保護収集委員会を組織し、町内鉱物の保護・収集・研究活動を行った。</p> <p>⑤「資料館便り」を継続発刊し、資料館の活動を広報することができた。</p>		
6. 課題と改善	<p>①常設展は、さらに石川地方の鉱物、希元素鉱物等、特色ある鉱物の展示が必要である。</p> <p>②郷土教育として、小中学校生に一層鉱物、歴史民俗資料による教育を実施継続していく必要がある。特に、中学生の利用が課題である。</p> <p>③石川町から採集された鉱物の町内所有者の調査等を進めていく。</p> <p>④収蔵資料・図書は整理と台帳の整備を確実に行う。</p> <p>⑤旧森林センターが利用できなくなり、収蔵資料の保管・管理が十分に行き届かない。</p> <p>⑥収蔵スペースがほとんどない状況であり、新たな部屋、施設が必要である。</p>		

